弥生時代の末期に上郷に本拠をおいた気多氏の 勢力下にあったと考えられていますが、葦田氏が

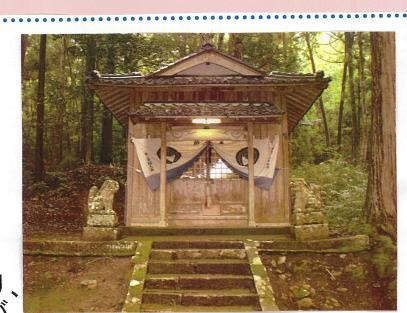
先住民を支配していました。 1185年の壇ノ浦の戦いで敗れた平家落人伝承に ゆかりある集落の一つと言われていますが、その

伝承理由はよくわかっていません。 神社は「三柱神社」ですが、平家落人の霊を鎮める 三つの供養塔を一つにして祀られている事からその

名称がつけられているそうです。 また、日野西眞定氏の論文では、市谷が木地屋系であり、 三柱神社が菊の紋を使っており、荒神の八大竜王の祠が 現存する事などが記述されています。 明治になって現在の三柱神社の前の神社は、京極藩の

神武山にある神社の建材の一部を使用する形で解体移築され、今も京極藩の瓦が

* 諸説はいろいろありますが・・・



[三柱神社]



丹筒埴輪発見状況]

コウロギ古墳は、市谷集落東側で東西に延びる尾根の先端に位置します。以前より 埴輪が採集され、当地域の中では主要な古墳として位置づけられていましたが、 古墳の形や大きさは不明な状況でした。 トライやるウィークの職業体験の一環として古墳の形や大きさを測る測量調査を 実施し、棺を納める墳頂平坦面の測量が終了しました。その結果、墳頂平坦面の規模は 東西 15m、南北 18mで、東側以外は円形である事が明らかとなりました。このため、 古墳の形は円墳である事が推定されます。

また、墳頂平坦面より西に下った斜面では円筒埴輪がやや倒れたような状態で発見されました。土砂の流出による移動が見られるものの、原位置より大きく動いてはおりません。この埴輪は墳丘の裾をめぐるように建てられていました。 墳頂平担面との位置関係より古墳の大きさは直径35~40mで8m程度の高さが想定

されます 築造時期は埴輪の形態より5世紀中頃になります。朝来市にある茶すり山古墳 (5世紀前半に築造)は同じ円墳で形がよく似ています。茶すり山古墳の方が大きく、早く作られたことから、形を真似た可能性が考えられます。 なお、古墳全体の測量は継続中です。







丹筒墙輪

昔、市谷に鉄道が走っていた事ご存知ですか!?

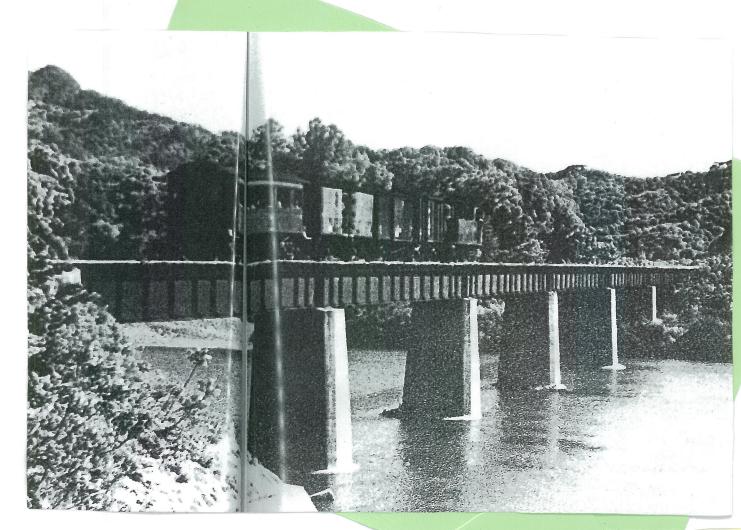
出石(11,2キロ)

1944(昭和19)年 5月 撤収

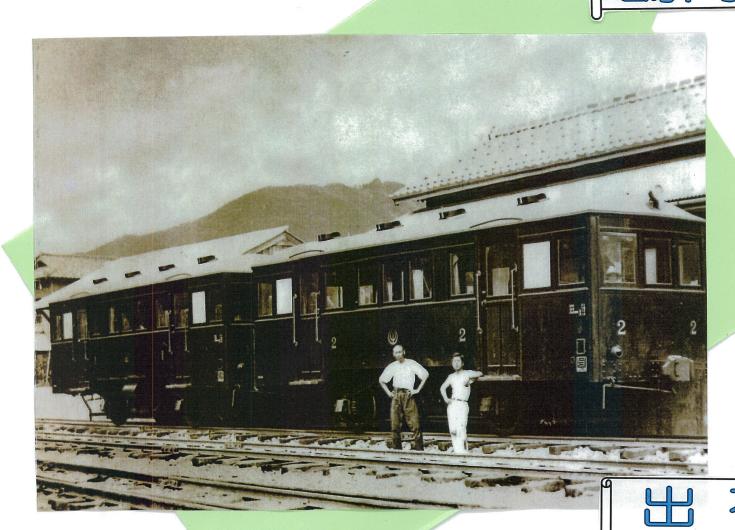
1970(昭和 45)年 7月20日 廃止

開業当初は、SLのほかに貨車六両全線 11、2 キロを 35 分で 「運転、1日7往復していた{駅は、出石―鳥居-島口―小坂村―

昭和5年には貨物運輸を始め、出石から米、木材のほか牛市場 から年に2回貨車 12 両を出し、2 百頭を江原まで運んだそうで ■ す。その後は経済恐慌、台風で鶴岡鉄橋が2回も流されるなどし ■ | て開業わずか 15 年の短命に終わり、1970(昭和 45)年に廃止され | ました。



鶴岡橋梁



出石·江原路線



残されています。

市谷地区は、21 戸の小地区ですが昔は50 戸程の集落だっ た様です。 また、この地には石ノ和田、カシワ、コウロギ、カキ谷、

オクヤマ古墳郡などがあり、弥生時代・古墳時代からひとつ! の集落ができたといわれています。

明治に入り、これらの古墳を掘り起こす人々が現れ、多 くの古墳が荒らされていきました。それと同時に、昭和に 入ると村の戸数も減少していったことから村の衰退していく

ことを憂い、これは先祖を粗末にしたからだと考えて、古墳を掘り出した後に『倶会一 【処(くえいっしょ)』と刻まれた大きな石碑を建て、村人がお参りをして供養をしました。

『倶会一処(くえいっしょ)』とは、阿弥陀経に出てくる 言葉で多くの人々が ともに一処に集まり合うことを 意味し、今でも毎年12月の第2日曜日に区民が集まり お参りを続けています。



